

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
呆	ホウ ボウ あきれる								
吠	ハイ ハイ ほえ ほえる		吠	吠		吠	吠 吠	吠	吠
								吠	
呂	ロ リョ	呂	呂	呂	呂	呂	呂 呂 呂	呂	呂
		呂	呂	呂	呂	呂	呂 呂	呂	呂
		呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂
呼	コ よぶ	呼	呼	呼	呼	呼	呼 呼 呼	呼	呼
		呼	呼	呼	呼	呼	呼 呼	呼	呼
昨	サク サク くう								昨
舍	シャ やどる	舍	舍	舍	舍	舍	舍 舍 舍	舍	舍
舍		舍	舍	舍	舍	舍	舍 舍 舍	舍	舍
呪	ジュ ジュ まじない のろい のろう まじなう	呪					呪 呪 呪	呪	呪
咒									咒

【吠】 旁を「友」や「友+点」とする字体もあったようだ。
 【呂】 「口+口」の字体と、「口」と「口」をつなぐ線がある字体「呂」の2種がある。中国では「呂」が出現するのは後漢の隸書だけで、その前後の時代は「口+口」の字体。大徐解字の篆文は「呂」。九經字様は「口+口」の字体を〈隸書〉と

している。日本でも上代から平安にかけて「口+口」の字体。現代の「呂」は康熙字典の影響を受けていると思われる。現代中国では伝統的な字体に倣って「口」と「口」をつなぐ線がない「口+口」を書く。
 【呼】 初文には「口」がなかったようだ。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
		呆	呆	呆			呆		呆			呆
		吠	吠	吠			吠					吠
		呂	呂	呂			呂		呂			呂
		呼	呼	呼	呼		呼	呼	呼	呼	呼	呼
		昨	昨	昨								昨
		舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍
												捨
												捨
		呪	呪	呪	呪		呪	呪				呪

【舍】 『JIS漢字辞典』では「舍」が「口」部に、「舎」（第二水準）が「舌」部にある。
 【呪】 「咒」は「くちへん」の位置が動いた異体字（動用字）。日本では上代から江戸期まで「咒」の方が優勢。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文	説文解字	隸書	草書	行書	楷書	正字体	日本上代
		(殷・西周・春秋・戦国)	篆	(秦・前漢・後漢)	草書	(南北朝から初唐)	楷書	楷書	平安初期
周	シュウ まわりあまねしめぐる 教4常①								王勃詩序
味	ミ あじわう 教3常①								杜家立成
命	メイ いのちのこと 教3常①								王勃詩序
和	ワ・オ なごむなごやかやわらくやわらげる 教3常①								王勃詩序
哀	アイ あわれあわれむかなしい 常①								王勃詩序

【周】大徐篆文では「冂」の左肩が開いており、五経文字もその字体を採っているが、甲骨、金文を見る限り、左からが開いている必然性はないようだ。手書きの通用体では「周」が書かれ、康熙字典に倣った活字では「周」が使われるが、弘道軒も文部省活字も「周」。漱石は「周」を書くが太宰は「周」

を書く。昭和24年の時点で岩田母型製造所に「周」の字体の母型はなかった。
【和】金文を見るかぎり、この字は「禾(のぎへん)」ではなく「木(きへん)」に従う字だったらしい。大徐篆文では「味」で郭店楚簡の字体と合致するが、他に合致する例が見つからな

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

い。康熙字典では大徐篆文の「味」を古文としている。
【哀】日本では上部が「一」ではなく「㇇」が多い。また「口」の下に横線が加わる字体が優勢。そのような字体は中国では北魏および唐代の楷書にある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
咽	イン・エツ のど のむ むせぶ 新①								元順嘉誌 無上秘要 干祿字書 王勃詩序
									王基嘉誌 龜山玄錄
									元寧嘉誌
咳	ガイ せき ①								大徐・口部 段注・口部 馬王堆 響替指歸
									大徐古文 段注・古文 夏承碑
哉	サイ かな や 人①								金文 戦国・金文 大徐・口部 敦煌漢簡 西狭頌 智永千字文 蘭亭叙 饒宝子碑 伊闕仏龕碑 干祿・序 響替指歸
									饒龍頭碑 等慈寺碑 五経・序(伏見) 響替指歸
									鄭義下碑 等慈寺碑 五経・序(鎌倉) 響替指歸
									高華英嘉誌 孔子廟堂碑
咲	ショウ さく わらう 常①								郭店楚簡 大徐・竹部 敦煌漢簡 熹平石経 十七帖 元順嘉誌 春秋左伝昭公 干祿字書 魏玉集
笑	ショウ えむ わらう 教4 常①								段注・竹部 馬王堆 弘明記 南華真経 江戸干祿 響替指歸
									馬王堆 寶林 金剛 鳩陀羅尼経
									九経・竹部 杜家立成
									九経・竹部 杜家立成

【咽】「大」は人が大の字になった形だが、脚を水平に広げれば「土」になる。「土」の頭をひっこめれば「工」になり、さらに「ユ」「コ」に変化する。
【咳】大徐に「小兒笑也」とある。いつから意味が変わったのだろうか。大徐本と段注本で字体がわずかに異なる。

【咲】「咲」と「笑」は異体字。現代中国では「咲」と「笑」は「笑」に統合されている。大徐篆文には「笑」しかみえないが、十七帖の字体は明らかに「咲」をくずしている。古くから「咲」に近い字もあったのかもしれない。康熙字典では「咲」を「笑」の古文としている。江戸期の版本の『大

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												咽 現代中国
												咳 現代中国
												哉 現代中国
												咲 現代中国
												笑 現代中国

日本永代節用無尽蔵には「咲」に「わらう」と振り仮名がついている例があり、「笑」と「咲」の使い分けははっきりしていない。陸軍幼年学校用字便覧では「咲ハ多くさくトイフ時ニ用イラル」とあるから、大正に入った頃には使い分けがあったようだ。大徐の大徐本と段注本では字体が異なる。顔

真卿の書による干祿字書は「竹+大」を〈正〉とし、「咲」を〈通〉としている。江戸期の官版の干祿字書では〈正〉が「竹+犬」になっている。五経文字は「竹+犬」になっている。九経字様では「笑」と「竹+犬」の字体の2種が載っている。漱石は「竹+大」と「竹+犬」の2種の字体を使っている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
品	シン ホシな								法華義疏
啞	ア								
啞	③								
員	イン かず								王勃詩序
唄	バイ うた								
唆	サ そそのかす								
哨	ショウ								
唇	シン くちびる								
脣	シン くちびる								聾瞽指歸

【品】江戸期の『大日本永代節用無尽蔵』の書き方は独特。漱石は下の「口」2つをつなげて書く。太宰治も同じ書き方なのは驚き。同じものが3つあるときに下の2つを点4つで書くのは一般的。現在も「澁」の旁を「澁」と書く。かつては「森」などもそのように書いた。

【唇】書道字典には「唇」は不掲載で、かわりに「脣」が載っている。『大徐解字』（大徐本）を見ると「唇」が載っているが、解説に「驚也」とあり、「脣」は「驚く」という意味の別字だったようだ。『陸軍幼年学校用字便覧』には〈唇ハモトおどろくノ義、今唇ト通用シテくちびるノ義トス。〉とある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												品 現代中国
												啞 現代中国
												員 現代中国
												唄 現代中国
												唆 現代中国
												哨 現代中国
												唇 現代中国

空海は「聾瞽指歸」でにくづきを「肉」の形に書いている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
啄	タク 人①		𠂔				啄 啄	啄	性霊集
							啄		
哲	テツ あきらか さい		𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			哲 哲 哲 哲	哲	豊替指歸
			𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			哲 哲 哲 哲		
			𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			哲 哲 哲 哲		
唐	トウ から		𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			唐 唐 唐 唐 唐 唐 唐 唐	唐	聖武天皇雜集
			𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			唐 唐 唐 唐		
			𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			唐 唐 唐 唐		
哩	マイル リ 人①						哩 哩	哩	
							哩 哩		
哺	ホ ふくむ はくむ 新②		𠂔	𠂔			哺 哺	哺	豊替指歸
			𠂔	𠂔			哺 哺		
喝	カツ しかる 常①		𠂔				喝 喝 喝	喝	王勃詩序
			𠂔				喝 喝 喝		
啓	ケイ ひらく もうす 常①		𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			啓 啓 啓 啓 啓 啓 啓 啓	啓	王勃詩序
			𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			啓 啓 啓 啓		
			𠂔	𠂔 𠂔 𠂔			啓 啓 啓 啓		

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
啄	啄	啄	啄			啄					啄 啄 江戸干祿 現代中国
哲	哲	哲	哲			哲	哲	哲			哲 現代中国
唐	唐	唐	唐	唐		唐	唐	唐			唐 唐 漢・居延漢簡 現代中国
哩			哩	哩		哩					哩 現代中国
哺			哺	哺		哺					哺 現代中国
喝			喝	喝		喝					喝 現代中国
啓			啓	啓		啓	啓	啓			啓 啓 干祿(通) 現代中国

【啄】顔真卿の干祿字書と江戸期の版本の干祿字書で字体が異なる。弘道軒の字体が興味深い。
【哲】金文では多く下部を「口」ではなく「心」に作る。大徐に「吉」を3つ書く古文が示されている。大徐本と段注本では字体が異なる。

【唐】大徐篆文や馬王堆を見る限り本来は「广(まだれ)」の字ではないらしい。
【啓】大徐では支部、五経文字では戸部、康熙字典では口部にある。